

## 第Ⅱ章 調査結果

### 1. 住まいの損害保険および共済の加入状況

本調査結果の集計は、損害保険・共済等の加入状況により、地震保険の加入・非加入の別で2区分、その詳細として6区分に分けて行った。

具体的な区分内容は以下の通りである。

#### (1) 地震保険加入状況：2区分

地震保険加入者 (6,998 サンプル)	地震危険を損害保険でカバーすることを選択している回答者 本調査においては、「住居建物」または「家財」の少なくともどちらか一方に対して地震保険に加入している回答者のこと。地震保険は火災保険とセットで加入する商品であるため、これらの回答者は同時に火災保険にも加入している。
地震保険非加入者 (8,500 サンプル)	上記以外の回答者

#### (2) 地震保険加入状況（詳細）：6区分

地震保険加入者 (6,998 サンプル)	前掲
共済加入者(地震担保) (895 サンプル)	地震危険を共済でカバーすることを選択している回答者 本調査においては、上記の地震保険加入者以外で、「住居建物」または「家財」の少なくともどちらか一方に対して、地震危険をカバーする共済に加入している回答者のこと
その他地震補償加入者 (202 サンプル)	地震危険を保険や共済でカバーしないことを選択しているが、その他の地震補償制度に加入している回答者
火災保険のみ加入者 (4,491 サンプル)	火災保険に加入する際に地震保険には加入しないことを選択した回答者 本調査においては、地震保険加入者以外で、「住居建物」または「家財」の少なくともどちらか一方に対して火災保険に加入しているが、地震による被害を補償する共済またはその他の地震補償制度には加入していない回答者のこと
共済加入者(地震不担保) (147 サンプル)	地震危険を共済でカバーしないことを選択している回答者 本調査においては、上記の4区分以外で、「住居建物」または「家財」の少なくともどちらか一方に対して、共済に加入している回答者のこと
保険・共済非加入者 (2,765 サンプル)	上記の5区分以外の回答者

《参考》住居建物・家財別 地震保険加入状況（詳細）別 サンプル数

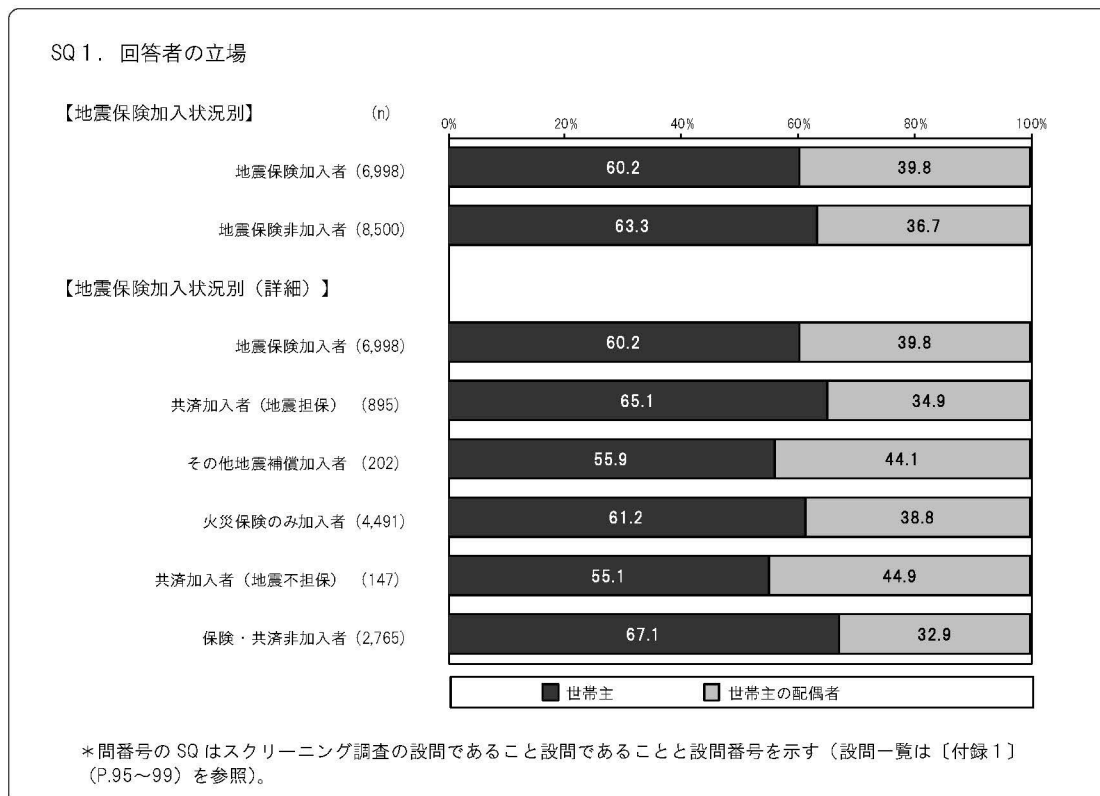
本調査の Q29 と Q30 では、住居建物と家財それぞれについて、損害保険や共済の加入状況を質問している。その結果を下表に示す。例えば地震保険加入者（6,998 サンプル）のうち、住居建物と家財のどちらとも地震保険に加入している者は約 7 割（4,961 サンプル）である。他の加入状況区分の者についても、住居建物と家財の加入状況が同じ区分である者の割合は 7 割以上となっている。

「住居建物」加入状況 (Q29)		1	4-7	3,8,9	2	10	11	計 (重複を除く)
		地震保険加入者	共済加入者(地震担保)	その他地震補償加入者	火災保険のみ加入者	共済加入者(地震不担保)	保険・共済非加入者	
「家財」加入状況 (Q30)		1	4-7	3	8	9		
1	地震保険加入者	4,961	384	61	408	77	1,227	6,853
4 7	共済加入者(地震担保)	272	899	31	95	44	150	1,202
3	その他地震補償加入者	135	58	90	45	22	106	378
2	火災保険のみ加入者	53	125	35	3,160	103	1,175	4,539
8	共済加入者(地震不担保)	20	25	5	31	126	27	188
9	保険・共済非加入者	55	23	11	221	41	2,775	3,120
計（重複を除く）		5,106	1,090	176	3,821	339	5,368	15,498

(注) 前ページの「(2) 地震保険加入状況（詳細）：6 区分」のサンプル数は、「居住建物」と「家財」の何れかが加入状況に該当するサンプル数を集計した値のため、本表のサンプル数計とは値が異なる。

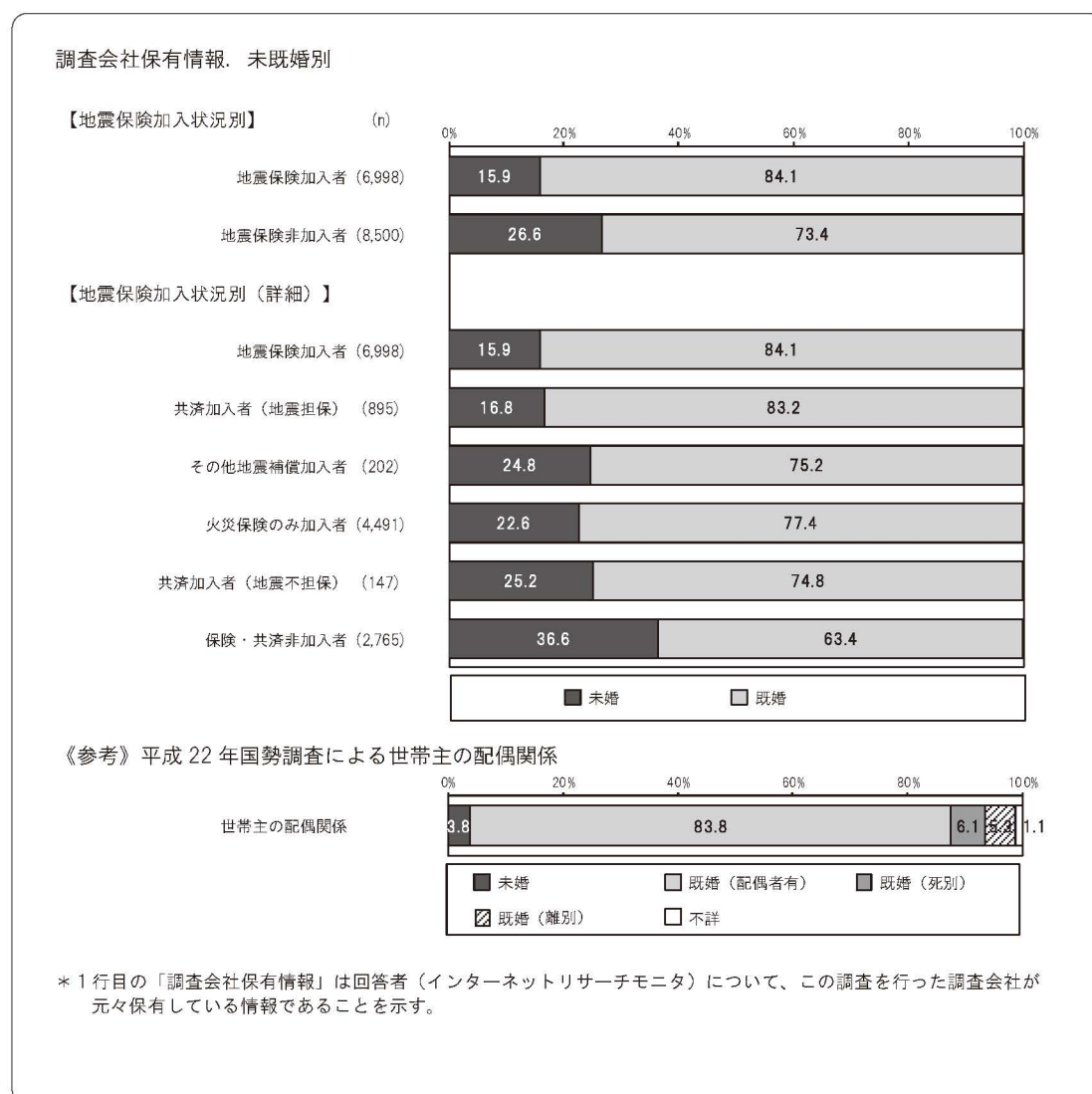
## 2. 回答者および回答者の世帯の属性

### (1) 回答者の立場



世帯主あるいはその配偶者を対象としてアンケートを実施した。回答結果における世帯主とその配偶者の比率はどの区分においても6:4前後である。

## (2) 未婚別

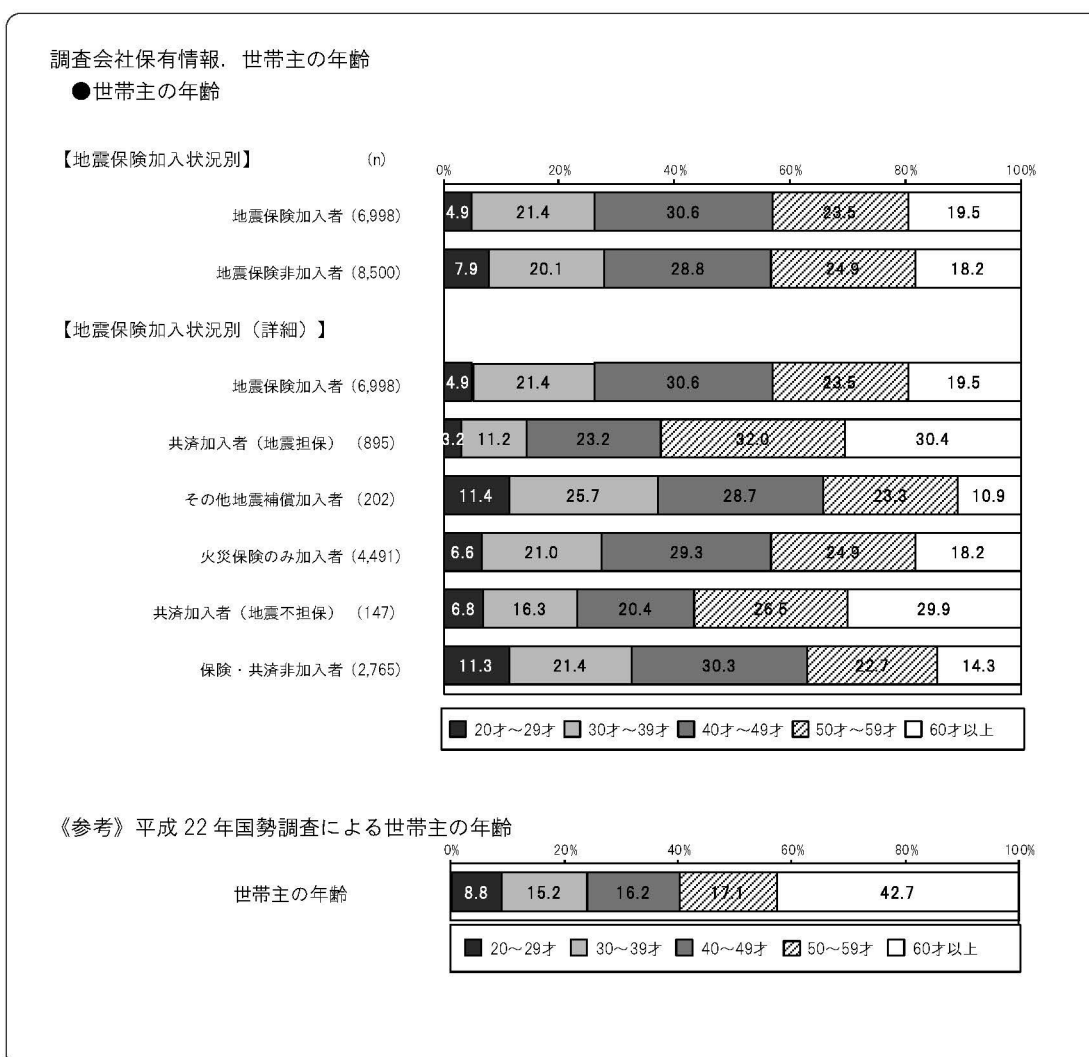


回答者の結婚の有無について質問した。地震保険加入者の「未婚」(死別、離別を含む)の比率は 15.9%、地震保険非加入者の「未婚」の比率は 26.6%と、約 11%の差がある。

地震保険非加入者について詳細にみると、共済加入者(地震担保)は「既婚」(83.2%)の比率が他の地震保険非加入者よりも高い。また、保険・共済非加入者は「未婚」(36.6%)の比率が 3 割半ばとなっている。

《参考》に平成 22 年国勢調査による世帯主の配偶関係を示す。この結果と比較すると、保険・共済非加入者の区分の「未婚」の比率が高いことがわかる。

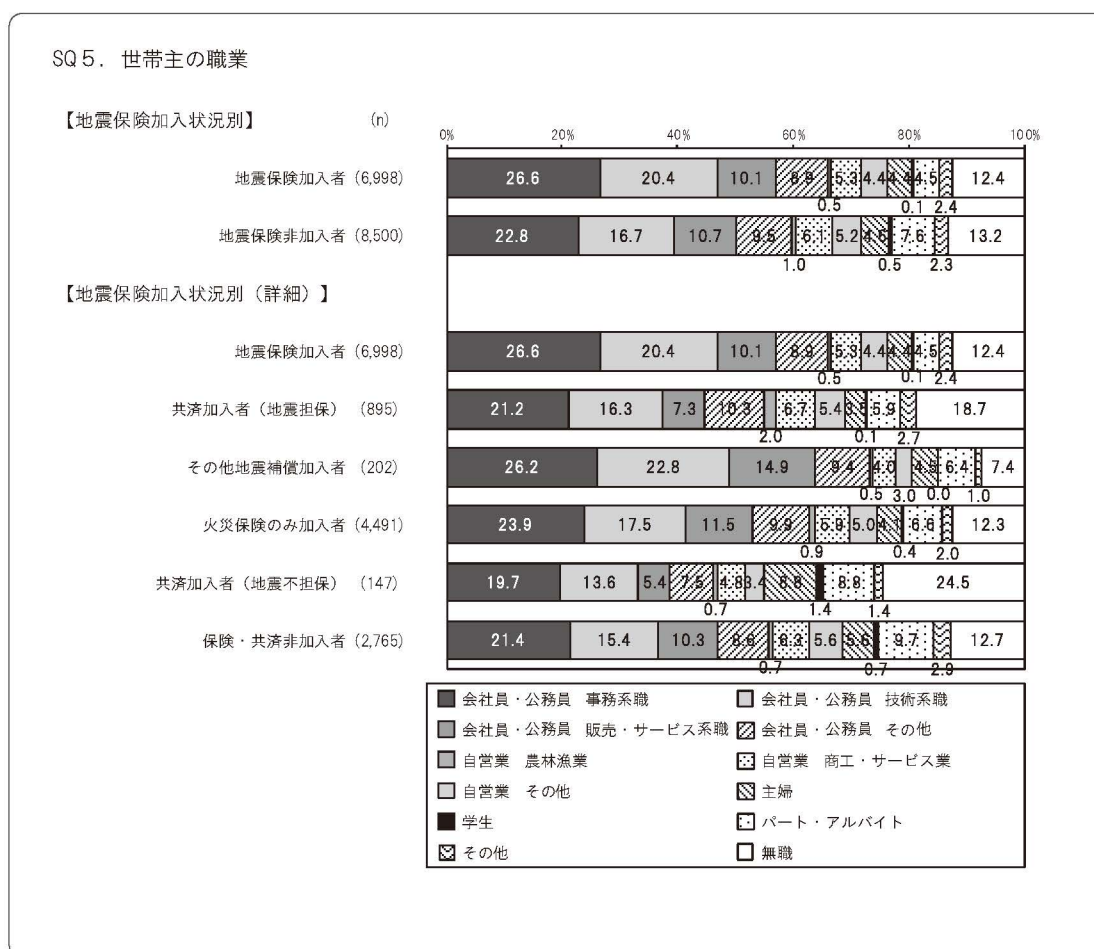
### (3) 世帯主の年齢



地震保険加入者、非加入者の年齢構成は、地震保険加入者の 40 歳以上の比率（73.7%）に比べて共済加入者（地震担保）の 40 歳以上の比率（85.6%）が大きい。

《参考》に平成 22 年国勢調査による世帯主の年齢構成を示す。この構成比率と比較すると、本アンケート回答者の方が特に 60 歳以上は少ないが、40 歳以上の比率（76.0%）は同程度となっている。

#### (4) 世帯主の職業

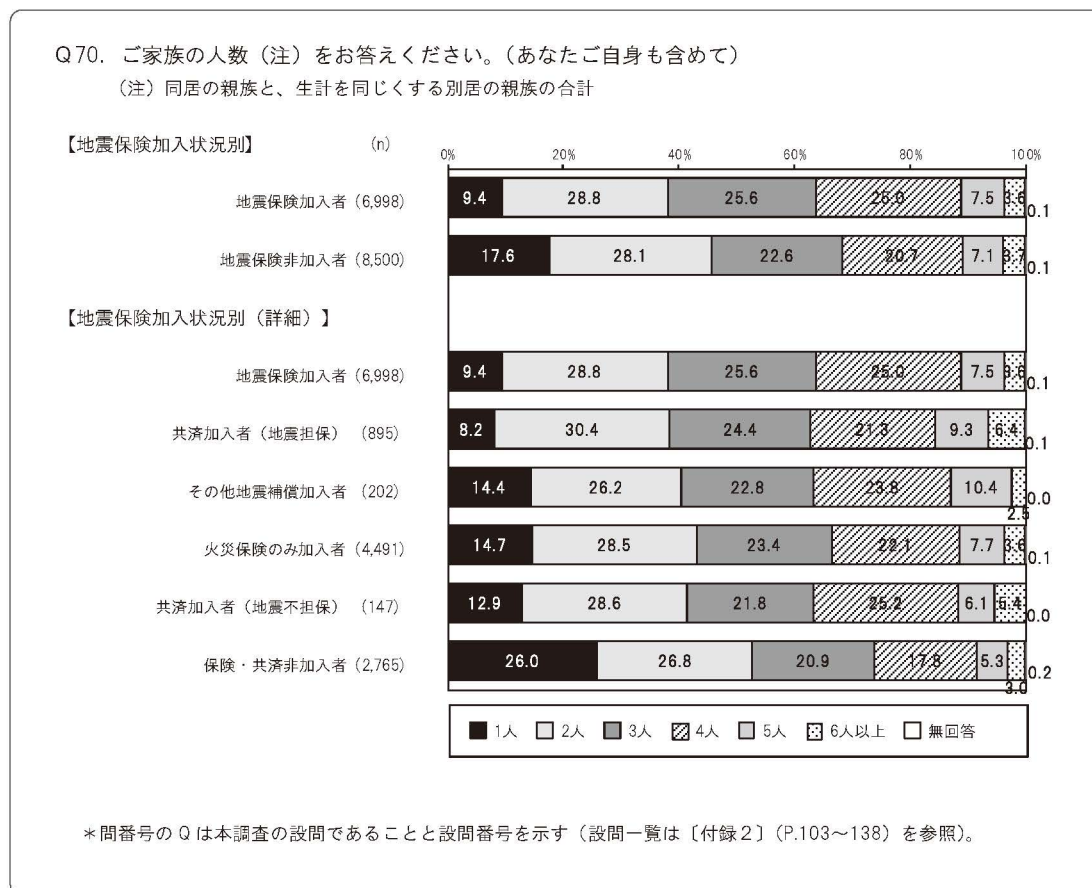


地震保険加入者の世帯主の職業は、会社員・公務員の比率が最も高く、全体の 66%を占める。その中でも事務系職が 26.6%と最も高い。地震保険非加入者も同様に会社員・公務員の比率が 6 割と高いが、地震保険加入者と比較すると、6%低い。地震保険非加入者では、加入者と比較して「パート・アルバイト」の比率がやや高い。

地震保険非加入者について詳細にみると、どの区分でも事務系職、技術系職の会社員・公務員が 2 割前後を占めている。共済加入者 (地震不担保) は、「無職」の比率が高い。

## (5) 世帯の人数

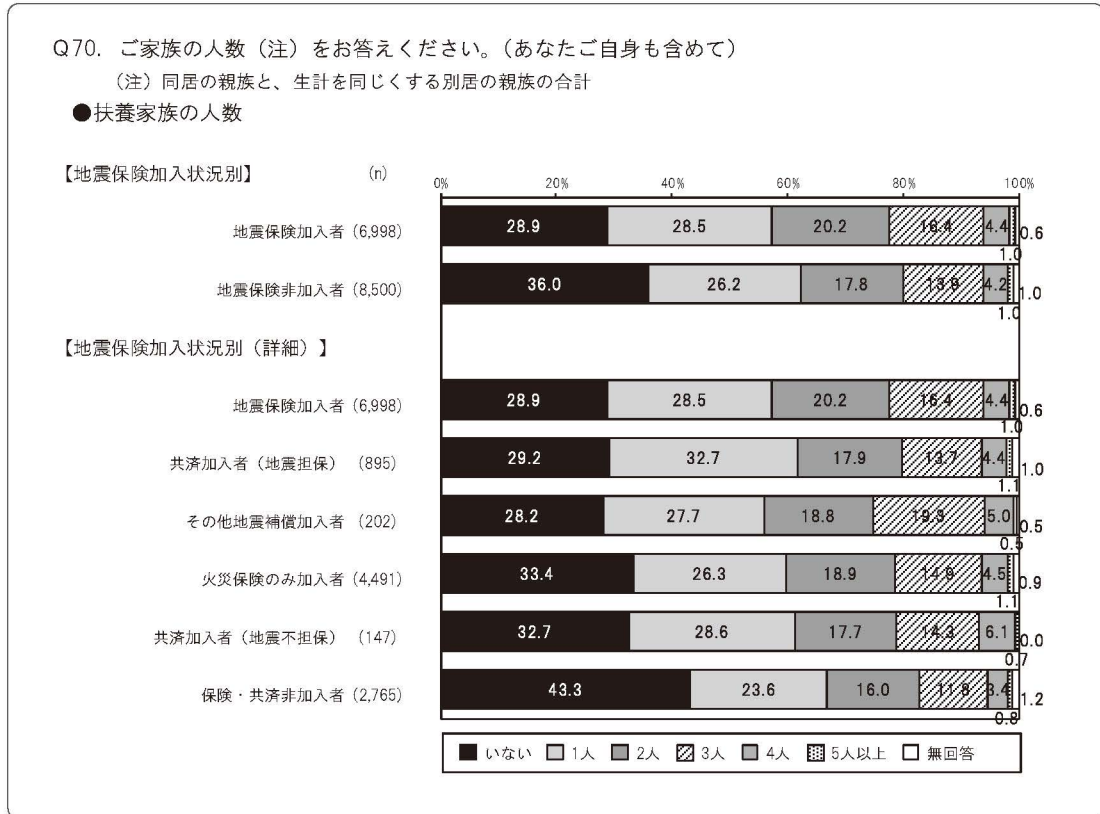
### ① 家族の人数



地震保険加入者・非加入者の比較において、差が大きいのは「1人」の比率である。地震保険非加入者の「1人」の比率（17.6%）は、地震保険加入者の「1人」の比率（9.4%）を8%上回る。また、「4人」の比率は、地震保険加入者（25.0%）が非加入者（20.7%）を4%上回る。

地震保険非加入者について詳細にみると、いずれの区分でも「2人」の比率が3割前後と最も高い。保険・共済非加入者は「1人」（26.0%）の比率が他の区分よりも高くなっている。

## ② 扶養家族の人数

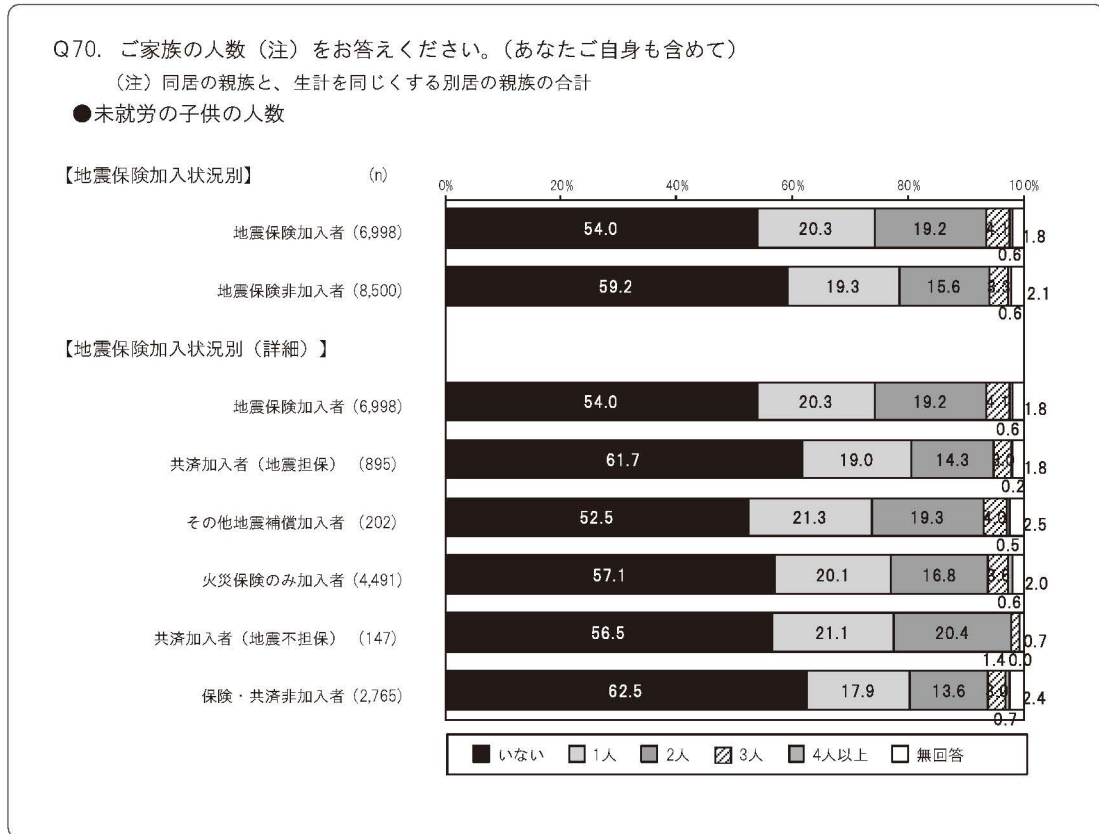


地震保険非加入者の世帯では、地震保険加入者の世帯に比べて、扶養家族が「いない」比率が高い。

地震保険非加入者について詳細にみると、保険・共済非加入者では、他の区分と比較して、扶養家族が「いない」比率（43.3%）が高い。共済加入者（地震担保）は、「1人」（32.7%）が他の区分よりも高くなっている。



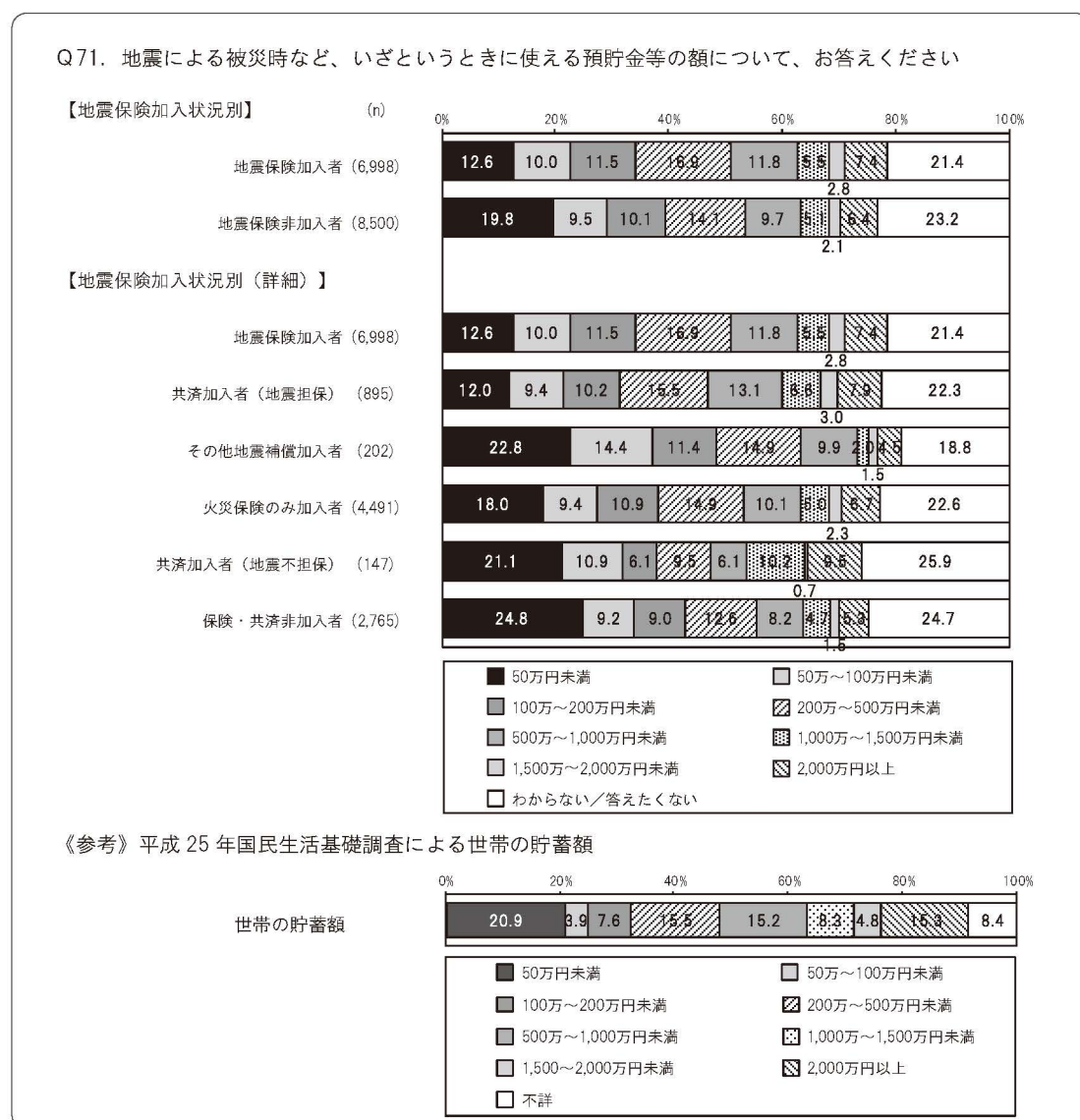
### ③ 未就労の子供の人数



地震保険非加入者の世帯では、地震保険加入者の世帯に比べて、未就労の子供が「いない」比率（59.2%）が高くなっている。

地震保険非加入者について詳細にみると、共済加入者（地震担保）、保険・共済非加入者は、他の地震保険非加入者と比較して、子供がいない世帯の比率がおおよそ6割と高くなっている。

## (6) 被災時に使用できる預貯金等の額



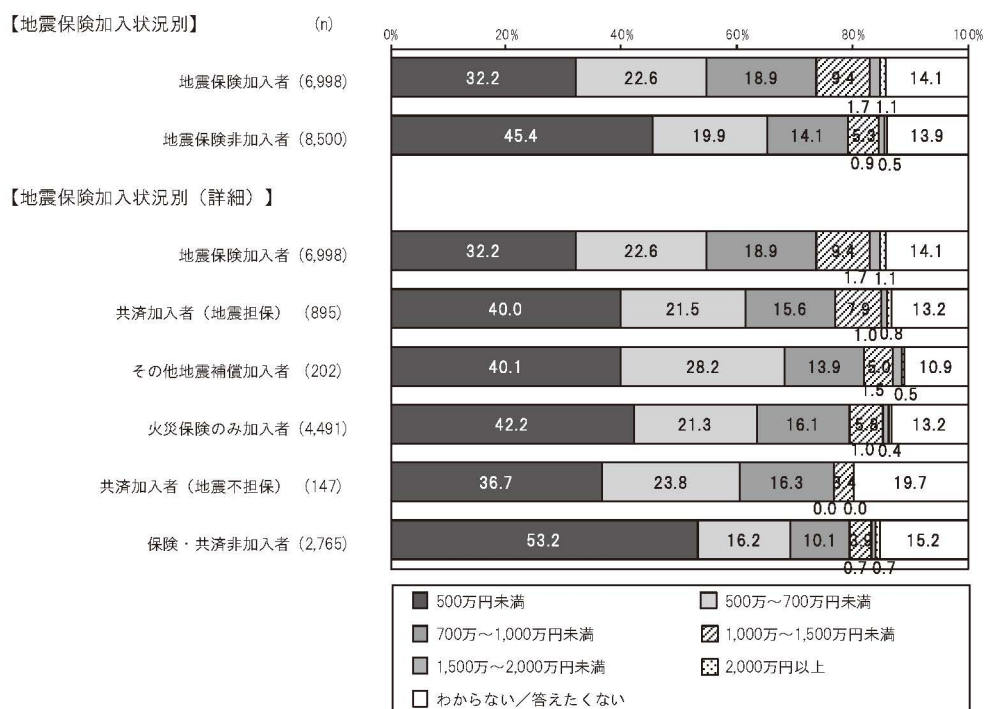
被災時に使用できる預貯金等の金額について尋ねた。地震保険加入者では、「200万～500万円未満」の比率（16.9%）が最も高く、地震保険非加入者では、「50万円未満」（19.8%）が最も高い。

地震保険非加入者について詳細にみると、「50万円未満」の比率が最も高いのは、保険・共済非加入者（24.8%）で2割半ばとなっている。

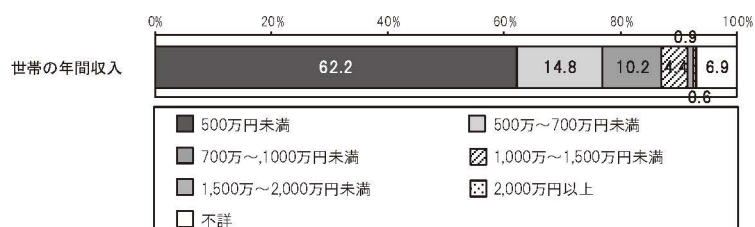
《参考》に平成 25 年国民生活基礎調査による世帯の貯蓄額の構成比率を示す。本調査では、被災時に使用できる額を尋ねているのに対し、国民生活基礎調査では貯蓄額全体を尋ねているという違いがある。国民生活基礎調査の結果は、本調査と比較して高額の区分の比率が高い。

## (7) 世帯の年収

Q72. あなたの世帯の年収（額面）について、お答えください。



《参考》平成 25 年住宅・土地統計調査（速報集計結果）による世帯の年間収入



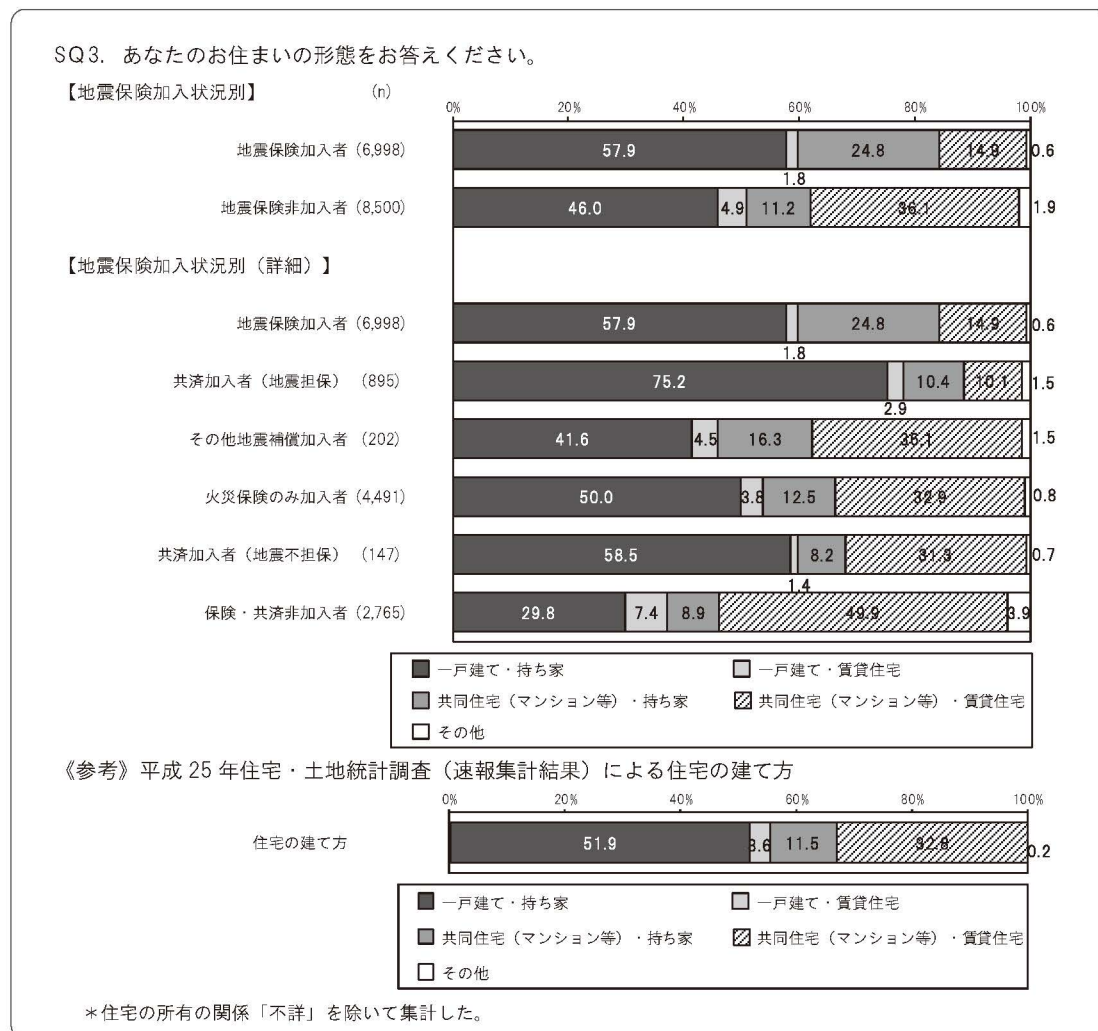
世帯の年収について、地震保険加入者では「500万円未満」の比率（32.2%）が最も高く3割強、次いで「500万～700万円未満」（22.6%）、「700万～1000万円未満」（18.9%）が2割前後となっている。地震保険非加入者でも、この順番は同じであるが「500万円未満」（45.4%）が4割半ばとなっており、加入者よりも低額の回答比率が高い傾向が見られる。

詳細な区分別にみると、保険・共済非加入者の区分では、他の区分よりも「500万円未満」（53.2%）の比率が高く、5割以上となっている。

《参考》に平成 25 年住宅・土地統計調査（速報集計結果）による世帯の年間収入を示す。この統計による年間収入では「500万円未満」（62.2%）が6割程度を占めており、本調査結果の方が、全体的に高所得世帯の構成割合が高い。

### 3. 居住する住居建物の属性

#### (1) 建て方



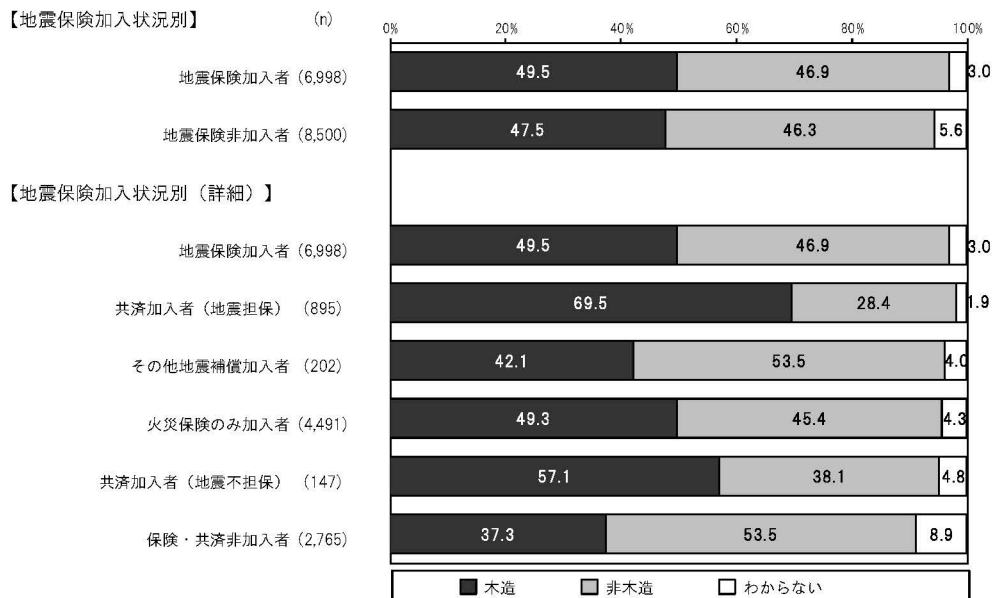
建物の形態は、地震保険加入者では「一戸建て・持ち家」（57.9%）の比率が最も高く、5割強となっている。次いで「共同住宅（マンション等）・持ち家」（24.8%）が2割半ばで続く。一方、地震保険非加入者も「一戸建て・持ち家」（46.0%）の比率が最も高いが4割半ばにとどまり、加入者と12%の差がみられる。また、非加入者は「共同住宅（マンション等）・賃貸住宅」（36.1%）が3割半ばと高く、加入者（14.9%）との差が大きい。

地震保険非加入者について詳細にみると、共済加入者（地震担保）の区分において、「一戸建て・持ち家」（75.2%）の比率が7割半ばと高く、他の区分を大きく上回る。一方、保険・共済非加入者は、「共同住宅（マンション等）・賃貸住宅」（49.9%）が5割を占める。

《参考》に平成 25 年住宅・土地統計調査（速報集計結果）による住宅の建て方の構成比率を示す。住宅・土地統計調査による持ち家比率（63.4%）より地震保険加入者の持ち家比率（82.7%）の方が高い結果となっている。

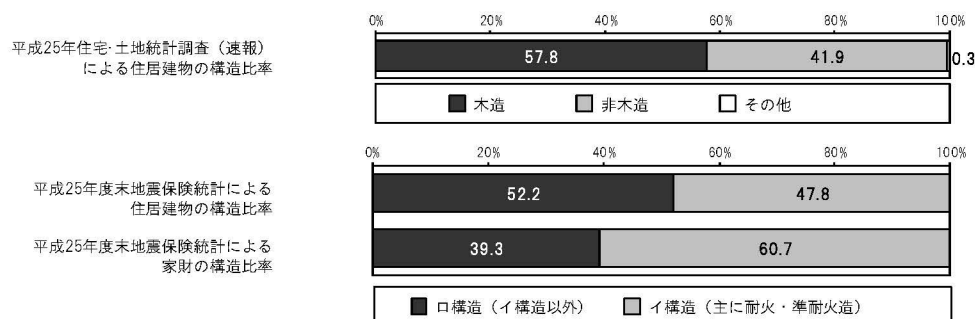
## (2) 構造

Q62. あなたの住んでいる住居建物の主な構造をお答えください。



\*「木造」はアンケート回答における「在来木造」「木質プレハブ造またはツーバイフォー（枠組壁工法）」「木造（詳細はわからない）」の合計、「非木造」は「鉄骨造、鉄骨プレハブ造」「鉄筋コンクリート造、鉄骨鉄筋コンクリート造」「非木造（詳細はわからない）」の合計

《参考》平成 25 年住宅・土地統計調査（速報集計結果）および地震保険統計による住居建物の構造



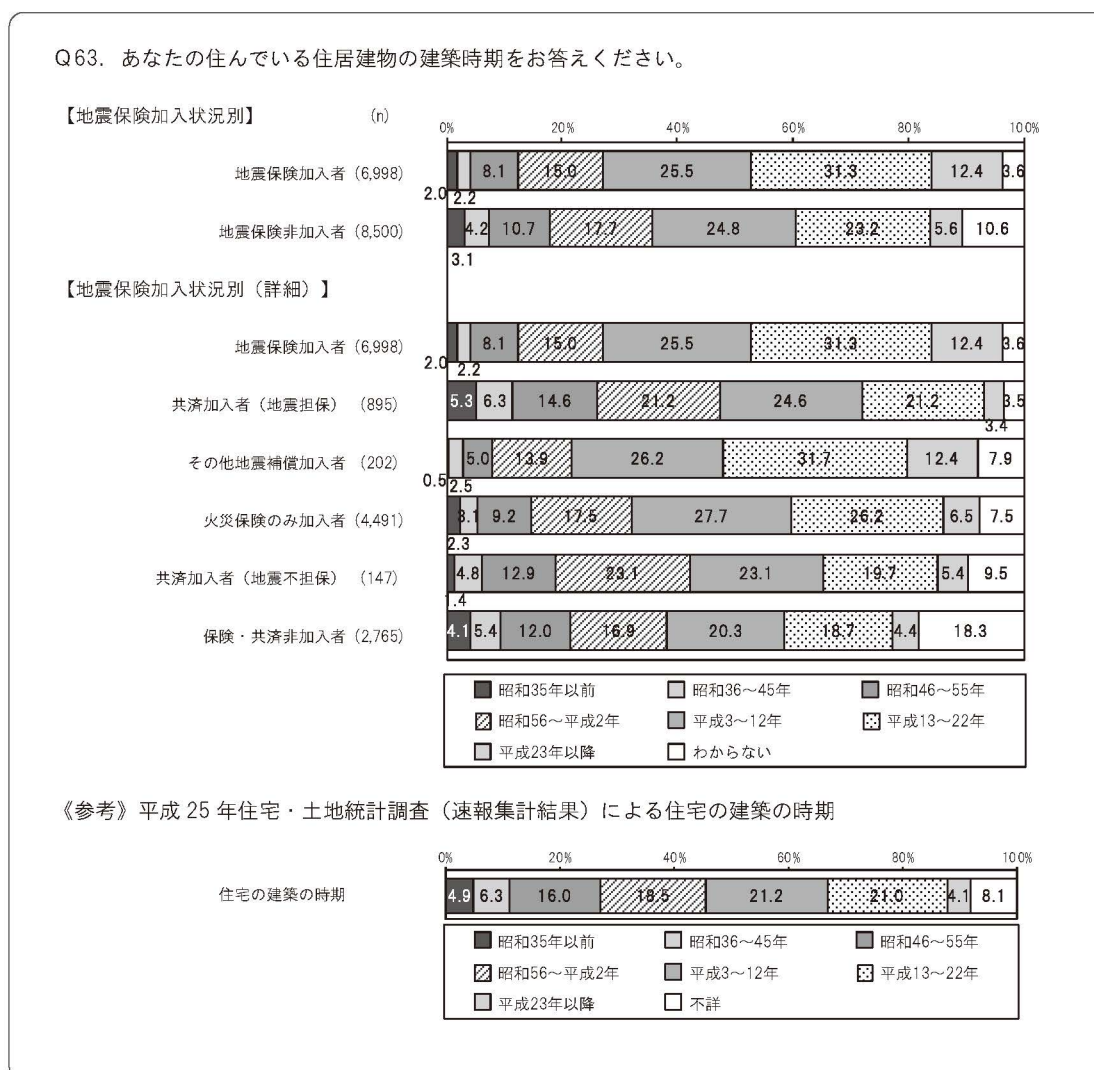
住居建物の構造について、地震保険加入者と非加入者の間に大きな違いはみられない。

地震保険非加入者について詳細にみると、「木造」の比率が最も高いのは、共済加入者（地震担保）で7割となっている。一方、「木造」の比率が最も低い区分は、保険・共済非加入者（37.3%）であった。

《参考》に住宅・土地統計調査による住居建物の構造比率、および平成 25 年度末地震保険統計による建物・家財別の構造比率を示す。住宅・土地統計調査と比較すると、本調査結果による地震保険加入者および保険・共済非加入者は「非木造」の比率が高い。《参考》に示した地震保険統計の住宅の構造比率では、家財を対象とする契約の住宅の構造は、建物を対象とする契約と比較すると「イ構造（主に耐火・準耐火造）」の比率が高い。



### (3) 建築時期

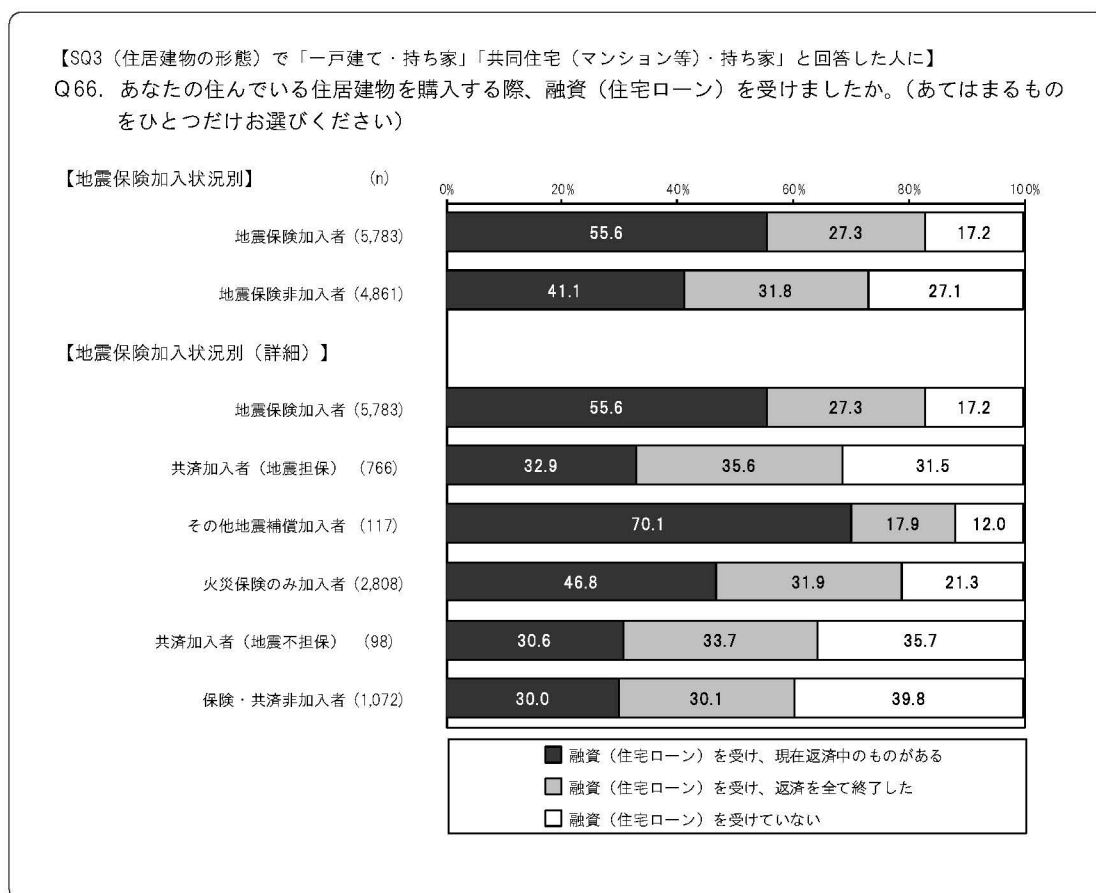


住居建物の建築時期は、地震保険加入者では「平成13～22年」(31.3%)の比率が最も高い。一方、地震保険非加入者では、「平成3～12年」が24.8%で最も高くなっている。加入者と非加入者を比較すると、加入者で全般的に新しい建築時期の構成比率が高くなっている。

地震保険非加入者について詳細にみると、その他地震補償加入者の区分で、「平成23年以降」(12.4%)が1割を超える。

《参考》に平成25年住宅・土地統計調査による住宅の建築の時期の構成比率を示す。昭和56年以降の比率(64.8%)について、保険・共済非加入者(60.3%)は低い、他の区分では何れも高い結果となっている。

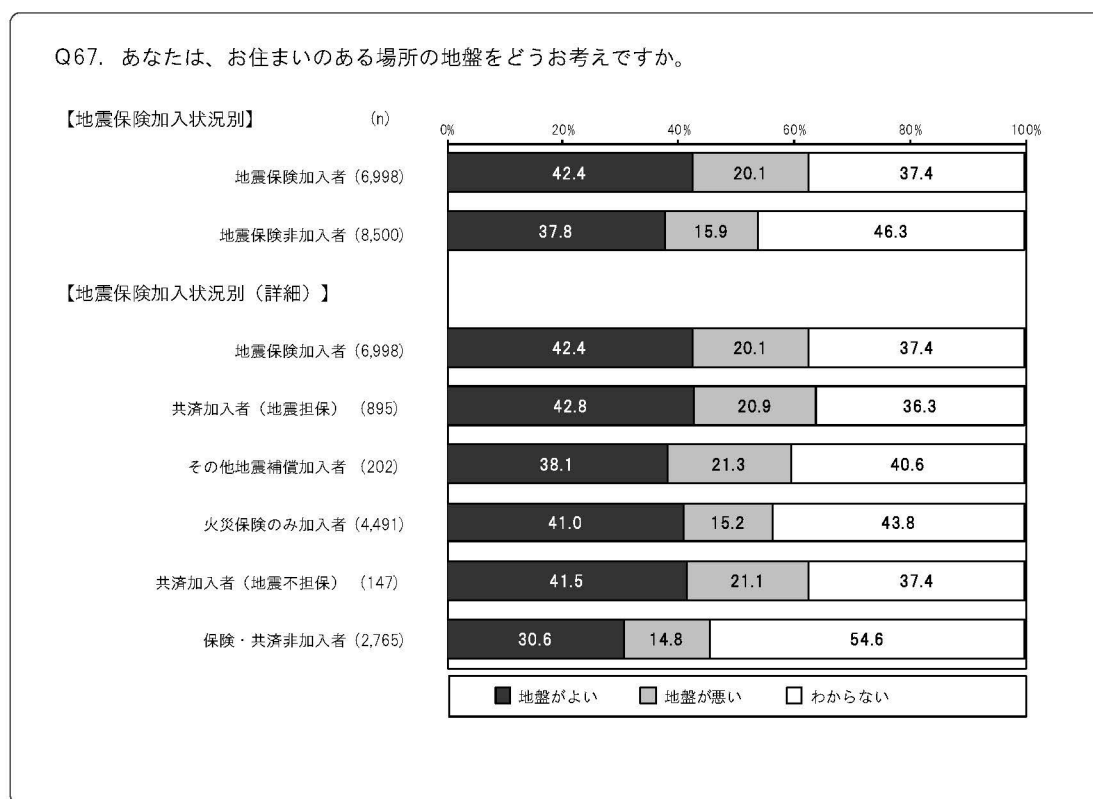
#### (4) 購入する際の住宅ローンの返済状況



持ち家に居住している人に、住宅購入の際に利用した住宅ローンについて尋ねた結果をみると、地震保険加入者は「融資を受け、現在返済中のものがある」（55.6%）が5割半ばとなっている。地震保険非加入者は、加入者に比べて、「融資を受け、返済を全て終了した」の比率が僅かに高い（31.8%）。

地震保険非加入者について詳細にみると、「融資を受け、現在返済中のものがある」の比率が最も高いのは、その他地震補償加入者（70.1%）の区分であった。また、保険・共済非加入者の区分では、「融資を受けていない」（39.8%）の比率が4割と高い。

## (5) 地盤の良否



住居場所の地盤についての質問では、地震保険加入者の42.4%が「地盤がよい」と回答している。一方、地震保険非加入者は、「わからない」(46.3%)の比率が最も高く、4割半ばに及ぶ。

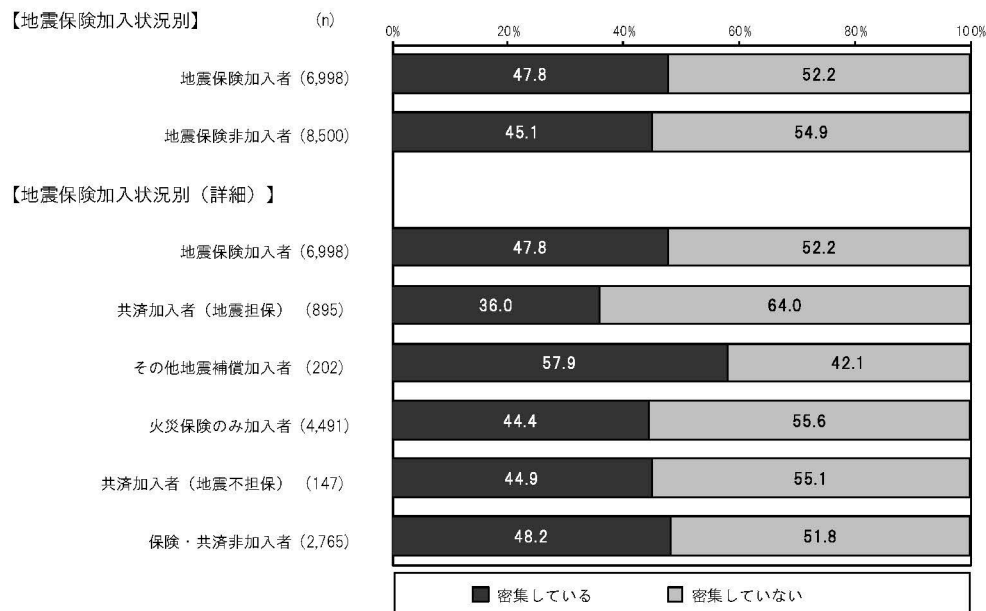
地震保険非加入者について詳細にみると、「地盤がよい」の比率はほとんどの区分で4割前後となっている。ただし、保険・共済非加入者では3割にとどまり、「わからない」(54.6%)が5割半ばを占める。



## (6) 住居周辺の建物密集度

Q68. あなたのお住まいのまわりは、建物が密集していると思いますか。

(注) 密集している地域とは、狭い敷地に建物が建て並んでいて、地域内に広い道路や公園等があまりなく、昔からある木造建築物が多く存在する地域を指します。

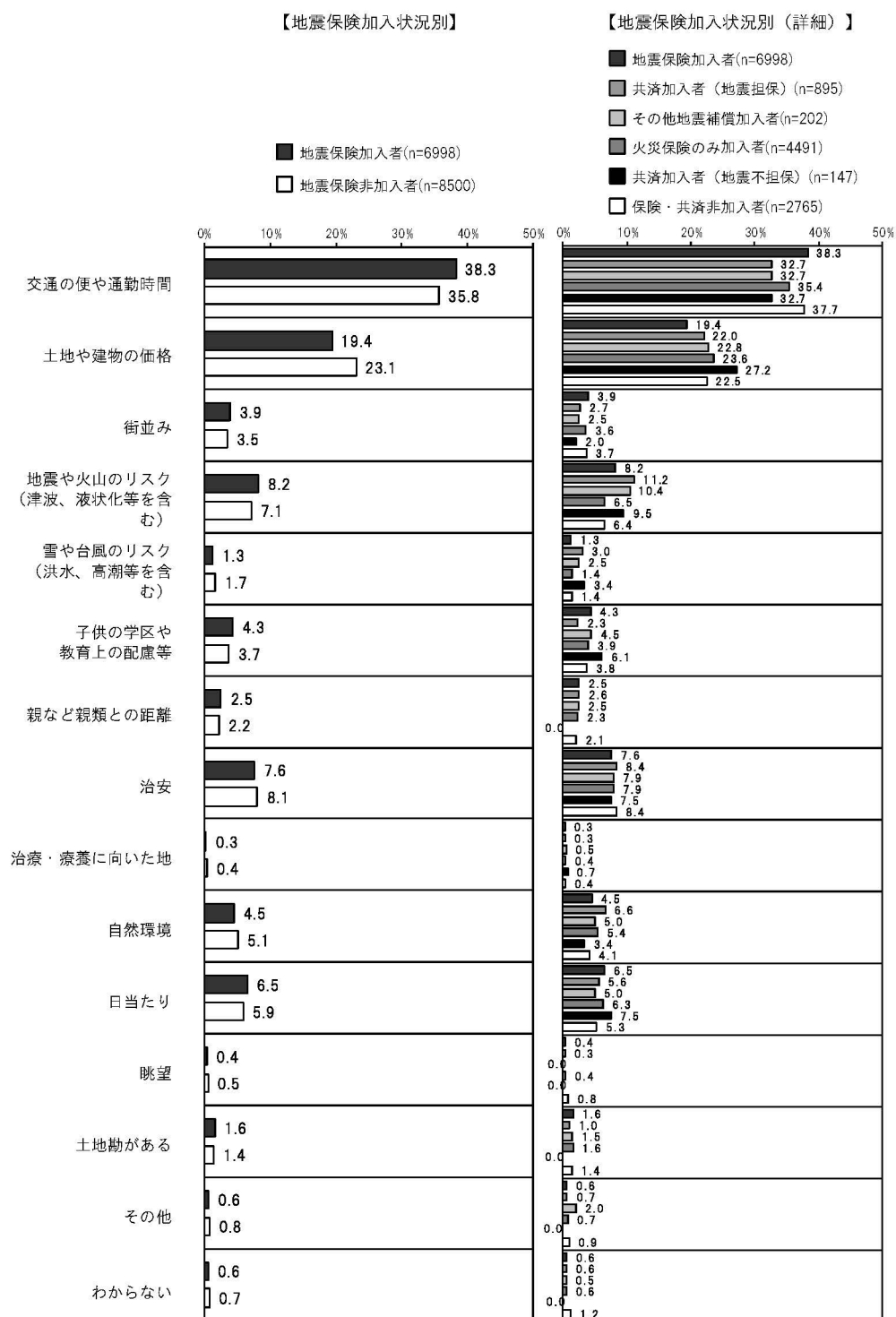


住居周辺の建物密集度は、地震保険加入者と非加入者で大きな違いはみられなかった。

地震保険非加入者について詳細にみると、その他地震補償加入者の区分では、「密集している」(57.9%)の比率が高く、その他の区分を大きく上回っている。また、共済加入者（地震担保）の区分では、「密集していない」(64.0%)の比率が高くなっている。

## (7) 購入時にもっとも優先する立地条件

Q69. あなたが、住居建物を購入するとした場合、立地条件として次のどれを優先しますか。  
優先度の高い順に最大5つまで選んでください。  
(1位のみ集計)



住居建物購入時に優先する立地条件（もっとも上位にあげたもの）をみると、地震保険加入者（38.3%）、非加入者（35.8%）ともに、「交通の便や通勤時間」が3割強で最も高い。非加入者は加入者に比べて、「土地や建物の価格」（23.1%）の優先度が高い。

地震保険非加入者について詳細にみると、共済加入者（地震不担保）の区分では、「土地や建物の価格」（27.2%）の優先度がその他の区分よりも僅かに高くなっている。